

令和2年度 第6回 理事会議事録

日時：令和2年9月29日（火）18：30～20：20

場所：Web 会議

出席：(理事)小林伸、磯野、高村、三科、小林司、有泉、
北山、名取、古屋、菊池、井村、大西、鈴木、平賀

(部長)入倉、

書記：五味

会員管理情報

慶事0件 弔事0件 施設数130

会員数928名(施設名863名 自宅65名)

I. 会長報告

先月は理事会不参加となりご迷惑をおかけしました。9月25日(金)にがんリハ対策推進委員会の会議(WEB)に参加した。今後もWEB開催が増えてくると思うが、意見を出し合っていたらと思う。

II. 審議事項(全3題)

1. スポーツPT部の活動(国際大会・マニュアル)について(古屋社会局長)

①新型コロナウイルス感染症に関するスポーツ理学療法部の対応マニュアルについて

第1版が県内用に作成され、県外への活動面については記載されていなかったため、別紙の通り一部修正(追記・削除)をしたが内容についてどうか。

質問・意見

磯野：実際の活動数はわかるか。

古屋：現在9チームが活動をしている

磯野：実際に練習をしているのか。

古屋：そのとおり。この話のきっかけは、大学生のチームが県外に遠征することになったため担当者より相談があったため作成することとなった。

磯野：活動開始するためには各施設の施設長に確認をしていただくことになっていたが、そのようにしているということではよろしいか。

古屋：書面で施設長に許可をいただいた者のみ参加している。

有泉：今回の改訂について事前に相談を受けた際に、根拠やマニュアルがないまま始めてしまうよりも、現状に則した内容でマニュアルを作成し、状況の変化に応じて修正をしていくのが良いのではないかと助言を行い、今回の提案となった。

結果

今回提出されたマニュアルを採用し、10月1日(木)から運用開始とする。

②部員の活動参加について

10月1日(木)から行われるSEIKO CUP ITF SENIORS

in Yamanashi への派遣依頼があった。部員の少なさや県外遠征後の対応もままならない中、国際大会への対応は困難なため、お断りをした。今まで年2回ほど国際大会に関わっているが、それ以外の依頼も増えると思う。このような依頼があった場合の士会としての対応を審議いただきたい。

質問・意見

有泉：少ない部員での活動で、部員自身の仕事を休んで参加している場合もあり、負担感や本業への影響も多少なりあると思われる場合は依頼を受けない方がいいのではないかと思う。また、主催者側の感染症対策についてもしっかり確認をしていく必要がある。国際大会なので海外の方も来ているため検査等はしっかりしていると思うが現状はどうか。

古屋：今後はオリンピック等の関係から少しずつ緩和されていくのではないかと考えている。

有泉：まず入国の時点で流行地域などからは、現状としては入国できない。入国が許可された場合はある程度は安心できるだろうと思われる。そして入国した選手の感染症対策についても主催者側に確認が必要だと考える。これらのことが確認できなければスポーツPT部の体制が整っていたとしても参加は見送るべきだと思いがいかがか。

磯野：現状無理をして参加するべきことではないと思う。スポーツPT部員からすると国際大会・国際的な選手に関われるということはいいことだと思うが、今の時点では本業の部分での患者様を第一に考え、感染させないような行動をするべきではないかと考える。

小林会長：当然所属長・施設長の許可を得ることと、主催者側の感染症対策の確認は必要。国際大会ともなるとなお一層のことだと思う。

名取：スポーツPT部にもとどまらず、他の事業についても依頼があった際に委託を受けるべきかどうか判断が難しいと思われるがどう考えればよいか。

有泉：現状、基準がない中での活動になってしまう。協会のガイドラインが出ているが、地方と都市部での対応も違うのですべてが当てはまるわけではない。

結果

本業への影響を考えながら無理のない範囲での参加を促す。参加する際は事前に所属長・施設長に許可を得て、主催者側の感染症対策を事前に確認する。

依頼があって委託をする際は理事会に審議事項または三役の会議で検討していく。その際の一報は事務局長にする。

2. 第3回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会開催案について(菊池学術大会局長)

今年の学術大会が延期となり、10月5日(月)に延期決定後初の運営委員会を予定している。その時のPT士

会の考えについてまとめたい。

審議事項

- 1)開催日を2日から1日に縮小する。
- 2)懇親会・市民講座は中止。
- 3)開催日は9月12日(日)、26日(日)、10月3日(日)のいずれかで考えている。
- 4)開催形式は対面形式、WEBのハイブリッド、完全WEBでの開催、その他が考えられる。
- 5)演題の一部をWEB発表とするのはどうか。

質問・意見

鈴木：一般演題をライブ配信する場合、一度にたくさんの発表ができるのか。

菊池：一度に多くの配信は難しいと思う。一つの会場でスケジュールを組みながらの開催となるので特別講演や大会長講演を考慮すると1人10分程度で学会全体では10人前後の発表になってしまう。

高村：PT、OT、STでの開催ということで、それぞれの規定を確認しておく必要がある。PTの例では、質疑応答を行わなければ協会のポイントが付加されず県内発表の実績のみとなる。これらを踏まえた上で紙面発表だけでよいのか考えていく必要がある。

磯野：現状では来年の9月の具体性が持てないと思う。スポーツPT部での部分で議論があったとおり、現時点で基準がないなど完璧な答えはなく、その時の状況で変わっていく。今の状況では先ほど説明のような対応でいいと思うが最終的にどの時点での考えを採用するのかPT、OT、ST士会ですり合わせを行えたらと思う。

鈴木：会場の選定や演題募集、協力スタッフの募集なども考えなければならないが、どの時点で決めるべきか。

高村：磯野副会長の考えの通りで、いつがリミットなのか考えた時に前倒しで考えていくべきと考える。講師についても対面では不可だがオンラインでは可能という場合もある。先ほどのハイブリッド(対面・WEB)開催という意見もあったが、基本的にはWEB開催ということで考えてしまっているのではないかと考える。ハイブリッド開催のデメリットとして大きな会場を借りる必要がある、業者とのやりとりもしていく必要がある。後に対面でも可能だったとなる場合もあるが、引き伸ばすよりも今の時点での考えで他の士会にも投げかけていいのではないかと考える。

菊池：今までの意見から、WEB開催で話を進めていこうと思う。

磯野：大会長からは何かありますか。

小林会長：高村副会長等々が発言した通りで、先延ばししても、いつを起点に考えるということも難しいので早め早めに考えていけたらと思う。その方が企画も立てやすく、予算の概算なども考えやすくなる

と思われる。以上のことを賛同いただければ今後の進行の良くなるのではないかとと思うが協議会長はいかがか。

磯野：来年1月で最終決定でもいいのではないかと考えたが委員会の方々の負担もあるので、決められるのであればこの場で決定してもいいと思う。

北山：一般演題のパワーポイントなどの動画を事前に事務局へ送付してもらい、当日は動画を流した後の質疑応答のみリアルタイムで実施するという方法で他の学会は対応をしている。ライブ配信となると通信トラブルが生じやすくこのような方法が好ましいと考える。教育講演に関しては先生方が慣れているのでライブ配信でもいいのではないかと考える。オンデマンドについては講師の方と相談して考えていく必要がある。業者に関しても、2画で同時進行可能な設定をしているところもあるようなので検討してほしい。

菊池：業者に関して検討していきます。

有泉：今までの意見をPT士会の意見としてOT、ST士会と話し合いをして決めていけたらと思う。開催日については、いずれの日程も他の行事が予定されているものはない。

磯野：開催日について第一候補から第三候補まで決めておくといいと思うがいかがか。

菊池：第一候補9月12日(日)、第二候補26日(日)、第三候補10月3日(日)で考えています。

結果

PT士会としての考えは

- 1)開催日を2日から1日に縮小する。
 - 2)懇親会・市民講座は中止。
 - 3)開催日は第一候補9月12日(日)、第二候補26日(日)、第三候補10月3日(日)の中から1日開催とする。
 - 4)完全オンラインでの開催とする。
 - 5)WEB発表に向けた準備(2画面同時進行等オンライン環境に適した業者の選定や、当日通信トラブル等があることを考慮し発表内容や動画を事前に集約しておく等)について熟考していく。
3. リハビリテーションのつどいへの派遣について(磯野副会長)

11月17日(火)に県主催のリハビリテーションのつどいがあり、毎年フレッシュマン発表を行っている。発表者はPT・OT・ST士会の新人の中から輪番で行っており、今年はPT士会の担当となっている。特に規定はないが、過去の例で士会長の所属している病院から1名選出をしていた。今年はどうするかご審議いただきたい。

質問・意見

有泉：この発表自体は新人がどのような発表をしているのか。

磯野：PT になった経緯や、実際に PT になって働いてみてどうかといった内容で発表をしている。通常通りでの開催ならば、高校生や勸学院の高齢者方等が来ている。

有泉：新人が入った病院の方々いかがでしょうか。

小林会長：今までは県立文学館で行っていたが、今年の概要等については決まっているのか。

磯野：人数を減らして開催予定だと思います。

小林会長：そちらへ派遣が可能なのかについても考える必要がある。

磯野：全ての病院を当たるのは大変だと思う。こちら（甲州リハ）で院長に確認をして派遣可能か伺いをたて、不可能となった場合は他の病院を当たるということによろしいか。

結果

甲州リハビリテーション病院の新人の中から選出し、施設長に派遣の許可を出してもらおう。もし、派遣不可となった場合は他の病院を当たる。

III. 報告

1. 各委員会等報告について

①糖尿病対策推進委員会（代読：有泉事務局長）

7月30日（木）にWEB意見交換会を実施した。

②山梨県理学療法士会 50周年記念事業実行委員会より（三科委員長）

8月に第2回実行委員会を行い共通事項として、開催日が令和3年10月24日（日）に決定した。コンセプト等については明日第3回実行委員会があるので検討していく。記念事業オリジナルの内容について、記念品作成、ロゴ公募、記念動画作成など案が出た。これについても検討していく。表彰については一部ご審議いただきたい（以下「審議」参照）。

来賓については他県士会の動向を見ながら決めていきたいと思う。来賓者については今後リストアップをしていく。当日の構成について、記念講演の準備をしておきたいと思っている。

時間帯については午後始まりで3パターン用意しているが、13時スタートの記念講演と記念式典（1時間程度）をして16時終了という流れになる予定。開催場所についてはアピオ甲府であれば20日前までキャンセルが可能であるため、他の施設よりも融通がきくという点からアピオ甲府に決定した。予算の関係では2～3時間の内容であれば30万円前後で可能。その後祝賀会等も行うということであれば食事代や飲み物代がかかってくる。一番予算がかかる部分は大会記念誌で作成費もだが送料で全体の1/3かかってしまうので、CD-Rでの配布なども検討していく。

次回の課題については別紙参照。

質問・意見

小林会長：かなり話が進んでいいい。

一つ早急に決めてほしいこととして、30周年の時に

山梨県知事をお呼びした。1年後の開催ではあるが早めにアポイントを取っておくことが好ましい。

三科：明日の実行委員会で検討させていただきます。

審議

1) 表彰に関して山梨県士会の名簿を50周年事業で使用したいと思っているが可能か。

2) 他県士会からの来賓の方の交通費は見積もるべきか。

3) 構成については記念講演・記念式典・祝賀会という順番でよろしいか。

4) WEB開催の場合ウェビナーを使用することは可能か。

質問・意見

特になし

結果

1) 退職等により退会されている方もいるため、最新の名簿を渡す。

2) 交通費は各県士会として計上をするので、記念事業実行委員会からは予算の見積もりは必要ない。

3) 記念式典・記念講演・祝賀会という流れだったと記憶している

4) 可能。使用方法がわかるスタッフが必要。

2. 社会局スポーツPT部より（古屋社会局長）

①対応チームが9チームから8チームになった（日川高校バレーボール部はコロナが落ち着くまで保留）

3. 社会局委託事業部より（古屋社会局長）

山梨県社会福祉協議会より、令和2年度介護現場人材育成研修については現状中止となったが、リモート開催であるなら再検討したいとの打診があった。これについてマニュアル作成を中心に行っていた帝京科学大学の渡邊修司先生をご紹介させていただいた。渡邊先生が講師ということではなくリモート開催に向けての準備のためということでご紹介した。

4. 学術研修局委託講習会部より（名取学術研修局長）

10月24日（土）の午後から翌25日（日）の午前中にかけて理学療法士講習会（応用編）をリモート開催することとなった。つきましては講師人数を6名から2～3名に変更し、コマ数も6コマから4コマへ変更した。

また、理学療法士協会から2020年度理学療法講習会リモート導入・運用支援金が2万円支給されるということで申請をした。

5. 学術研修局学術研修部より（名取学術研修局長）

第1回学術研修会を11月1日（日）にオンライン開催することとなった。講習会の内容はがん患者に対するリハビリテーションについてで、研修時間は約3時間の予定。

第2回学術研修会を令和3年1月24日（日）にオンライン開催することとなった。講習会の内容は高次脳機能障害に対するリハビリテーションについてで、講習時間は約3時間の予定。

審議

学術研修会で今後ウェビナーを使用していくが、こちらのアカウントの周知や使用するに当たっての順序等を決めていただきたい。

意見・質問

有泉：ZOOMでは皆様の電子メールにURLを貼り付けて送付しているが、ウェビナーについてもその方法でいいのかという内容か。

平賀：ウェビナーもZOOMと同じ方法でログインができるが、各局・部で使用するに当たって、事務局長が行っているようにログインIDとパスワードが必要になってくる。この情報をどのように渡すかということでしょうか。

名取：その通りだと思います。

平賀：この情報を電子メールで送付していいのかセキュリティ面からもう少し厳重にした方がいいのかというところだと思います。

名取：不特定多数の方が使用してしまうといけないので、ウェビナーの使用規則や権限等については事務局にあると思います。

先ほどの学術研修会は参加者が10名程で使用するかどうか検討をしますが、今後学術研修部では使用していく方向性となっている。

磯野：部長までの範囲でログインID等を送付してもいいのではないかと考える。責任は局長にあるとしてどのような使用方法があるか周知しておくこともいいかと思えます。

名取：送付方法としてはメールではセキュリティ上どうなのかというところですが。

有泉：使用するにあたって借用書を書いていただいている。セキュリティ面についてはパスワードを月に1度変えようと考えているが様々な会議が入ってしまい、同じパスワードで行ってきた。今度区切りがついたところからパスワードを変更していきたいと考えている。

小林司：他の士会では一度シミュレーションをしてから行った。PT士会でも一度試してから行ったほうがいいと思う。

結果

一度局長にアカウントを教え、部長へは局長の判断で伝えていく。パスワードの変更等も都度行っていく。

6. その他

①サポーターズについて

井村：新人紹介はないのか。

大西：新人紹介は行わないことになりました。

②生涯学習局より

新人教育プログラムも下半期に向けて、WEBでの開催だが行っていく予定。新人については無料だが、2～3年目の方は8千円のコストがかかってしまう。これについて県士会から何かしらの補助ができないか今後検討していく。

7. 事務管理局(有泉事務管理局長)

①ZOOMウェビナー契約を交わしました。500人参加プランです。

ZOOMのアカウント使用件数が増えています。ヤフーカレンダーを利用して計画的な運用をお願いします。

②メール配信運用に向け、アドレス登録の呼びかけをお願いします。現在409名の登録がありました。

③ボランティア保険1年間更新しました。

④士会事務所の管理会社が10月より変更になります。

IV. 次回の理事会日程について

日時 令和2年10月27日(火) 18:30～

場所 Web会議

連絡 9月23日(金)までに審議事項および資料を事務管理局(有泉理事)へ提出する。議題がない場合でも事務管理局へ連絡する。理事会資料は事前にメールで各理事へ連絡する。